

平成26年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 結果と考察

1 学力調査の結果

A 教科の内容												
教科	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		読む		東京都	本校
	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校		
国語	46.8	44.7	64.1	62.3	48.2	47.8	66.0	61.2	68.8	62.9	61.6	58.0
社会	88.1	91.2	49.5	40.0	69.2	66.4	57.4	52.3			60.4	55.3
数学	84.1	69.7	28.9	27.4	54.9	50.5	67.9	63.2			56.9	52.0
理科	84.3	78.5	46.5	40.6	51.7	50.2	54.3	49.8			54.4	50.0
英語	73.5	72.4	37.4	31.6	57.8	47.4	69.0	60.0			62.3	53.7

B 読み解く力に関する内容									合計正答率 (A+B)	
	取り出す力		読み取る力		解決する力				東京都	本校
	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校
国語	40.9	30.3	59.5	53.5	61.5	47.4	50.7	40.4	60.1	55.5
社会	55.9	51.3	39.0	29.4	45.2	33.8	46.7	38.2	57.7	52.0
数学	75.1	72.4	39.3	39.0	11.7	8.8	42.0	40.1	53.8	49.5
理科	56.2	50.0	38.6	32.5	38.0	31.6	44.2	38.0	52.2	47.4
英語	35.5	25.4	22.3	10.5	19.1	10.1	25.6	15.4	54.7	45.7

A教科の内容においては、社会科の関心・意欲・態度の結果が東京都の平均を上回っている以外は、ほとんどの項目で東京都、江戸川区の平均より下回っている。特に英語の「技能」においては10パーセントも低く、手だてが必要である。

B読み解く力に関する内容においては、どの項目においても東京都の平均より10パーセント近く低い項目がある。Aにおける「関心・意欲・態度」の結果を見ると決して著しく低い結果は出ていないものの、「読み解く力」に関してこのような結果が出ているということを実感を受け止め授業改善を行う必要がある。特に途中であきらめずに最後まで課題解決に向けて努力する姿勢や、発問の意図を理解する力が求められる。

具体的な方策として

- 1 授業の目標を明確にし、目標を達成させるために分かり易い授業展開を工夫する。
- 2 教材や資料を効果的に活用するだけでなく、視覚的にも効果がある電子黒板などを積極的に活用する。
- 3 ワークシートの工夫や自己評価カードなどを用い、生徒の学習状況を正確に把握する。
- 4 家庭学習の取り組ませ方の工夫と改善

2 各教科の問題ごとの正答率一覧と考察

国語	1-(1)	1-(2)	1-(3)	1-(4)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	2-(4)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	3-(4)	4-(1)	4-(2)	5	6-(1)	6-(2)
東京都	70.6	94.3	27.4	34.5	78.7	89.4	64.3	94.3	75.3	53.2	43.7	79.7	37.4	40.7	68.4	71.6	72.1
本校	64.9	92.1	29.8	44.7	71.1	90.4	64.0	94.7	59.6	41.2	48.2	73.7	31.6	34.2	64.0	64.0	69.3

	6-(3)	6-(4)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	7-(4)	8-(1)	8-(2)	8-(2)	8-(3)	8-(4)
東京都	57.3	74.2	41.7	40.1	59.5	61.5	49.9	70.0	21.5	51.2	59.1
本校	48.2	70.2	31.6	28.9	53.5	47.4	58.8	60.5	21.1	50.9	44.7

【結果と課題】

ほとんどの設問に対し、都や区の平均より正答率が下回っている。設問によってはかなり下回った結果もある。平均より10%以上下回っている設問は以下のとおりで、課題にも直結すると考える。

- ① 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと。「3(1)、3(2)」
- ② 文章の中心となる内容について理解するために必要な情報を正確に取り出すこと。「7(1)、7(2)」
- ③ 文章から読み取ったことを基に、理解・解釈・推論し、文章の中心となる内容について考えをまとめること。「7(4)」
- ④ 書くことについて学習したことを基に、意図や目的に応じて工夫して文章を書こうとすること。「8(4)」

※7(1)、7(2)が「取り出す力」、7(4)が「解決する力」の評価の観点になっているため、「B 読み解く力に関する内容」が大変低い結果となっている。

【今後の具体的方針】

- ① について：小テストの継続、「漢字コンテスト」への取り組み方を工夫する
- ② について：読書活動を充実させる。読み取り方の指導を継続することはもちろん、定期的に問題演習に取り組みせ、読解や問題演習に慣れさせる。
- ③ について：読書活動を充実させる。読み取ったことを基に、自分の考えを話したり、書いたりする場面を増やす。
- ④ について：書かせる場面を増やす。意図や目的を明確にし、書く前に叙述の仕方を確認する。例を示したり、友達の文章を読んだりする場面を増やす。

その他：毎時間の板書の工夫、思考の軌跡がわかるワークシートの工夫、グループ活動の工夫

社会	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(1)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	3-(4)	3-(5)	3-(6)	4-(1)	4-(2)
東京都	54.0	54.8	40.4	88.7	70.6	54.1	77.2	76.4	73.5	81.4	85.6	91.7	34.9	88.1	36.3	51.0
本校	49.1	57.0	32.5	90.4	67.5	50.9	79.8	87.7	57.0	74.6	88.6	92.1	24.6	91.2	28.9	45.6

	4-(3)	5-(1)	5-(2)	5-(2)	5-(3)	6-(1)	6-(2)	6-(3)	6-(4)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	8-(1)	8-(2)	8-(3)
東京都	63.4	51.2	57.6	23.9	77.5	36.6	29.4	68.5	42.2	42.7	33.0	36.5	69.0	44.9	53.8
本校	54.4	41.2	37.7	19.3	66.7	26.3	26.3	65.8	28.1	44.7	30.7	32.5	57.9	28.1	35.1

【結果と課題】

都や区の結果と比べると全体的に正答率が低い。その中でも以下の点に課題がみられた。

- ① 1つの資料に対する読み取りの正答率はよいものの、複数の資料を関連づけて読み取ることが苦手である。
- ② 読み取った資料から課題や情報をまとめる力に課題がある。
- ③ 世界の国々の位置や名称、様々な地域の生活様式の理解に課題がある。

【今後の具体的方針】

- ① について：授業内で複数の資料から読み取りを行う作業を増やす。
- ② について：新聞やレポートなどに必要事項を簡潔にまとめていく作業を増やす。
- ③ について：地図帳を積極的に使用しながら、写真や映像資料などを用いることで、理解力を高めていく。

数学	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	2-(4)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	3-(4)	4-(1)	4-(2)	5-(1)	5-(2)	5-(3)
東京都	57.4	62.5	55.8	78.5	78.9	73.2	62.0	71.9	79.8	63.1	84.6	50.9	87.8	29.3	22.8	44.4
本校	53.5	65.8	50.0	72.8	79.8	68.4	63.2	64.0	78.9	53.5	82.5	40.4	76.3	18.4	7.9	34.2

	6-(1)	6-(2)	6-(3)	6-(3)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	8-(1)	8-(2)	8-(3)	9-(1)	9-(2)	9-(3)
東京都	72.6	25.9	6.3	13.9	49.5	80.3	59.2	63.1	50.9	10.9	87.0	27.6	12.5
本校	60.5	27.2	28.1	7.0	48.2	63.2	52.6	54.4	49.1	5.3	90.4	28.9	12.3

結果と課題】

数学への関心・意欲数学的な技能、知識・理解は高いが、見方・考え方についてはほとんど東京都の平均を下回っている。

特に、問題文を読んで、必要な情報を正確に読み取り、比較・関連付けて読み取る力や、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力が低いことに気づく。

また、連立方程式の分野については本校の生徒が苦手だと考えている子が多く、下回った原因と考えられる。

【今後の具体的方針】

今後は、基礎的な問題演習を以前どおり継続させていき、基礎学力の維持に努めていきたい。また、生徒が自分でどのように考えたのか、解いたのかを言葉などで説明する場面を授業で取り入れ、理解を深めさせていきたいと考える。一方で、文章問題を解く習慣をつけさせ、考えさせることを多くの場面で取り入れていきたい。

理科	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	3-(4)	4-(1)	4-(2)	4-(3)	5-(1)	5-(2)	5-(3)
東京都	89.6	59.3	54.3	18.2	39.8	34.6	40.0	66.8	80.4	47.1	39.3	43.3	70.1	59.7	27.6	27.6
本校	92.1	57.0	37.7	9.6	41.2	30.7	35.1	57.9	71.1	71.9	44.7	39.5	36.0	66.7	64.9	25.4

	6-(1)	6-(2)	6-(3)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	8-(1)	8-(2)	8-(3)	9-(1)	9-(2)	9-(3)
東京都	56.8	64.0	59.3	68.0	29.9	88.1	57.0	32.0	39.9	55.3	45.2	36.0
本校	44.7	60.5	49.1	52.6	26.3	85.1	43.9	23.7	38.6	56.1	41.2	24.6

【結果と課題】

- 全体的に都平均よりも正答率が下回る。
- 一問一答形式では、関心や思考力の問いには都平均を上回る部分が見られる。
- 観察や実験の技能に関する問いでは、授業で行った内容では高い正答率が見られる。
- 複数の情報を合わせて解く問題について、非常に苦手とする結果が見られる。このことについては、問題を解く力だけではなく、問題文を読み取る力も不足しているのではないかと推察される。問4(3)：「観察結果を総合的に判断し、岩石の種類を適切に考えることができる【科学的な思考・表現】」

【今後の具体的方針】

- なるべく授業ごとに、前時の復習を行い、繰り返し学習する機会を増やす。特に重要語句については、プリントも活用して復習する。
- 実験や観察の技能については、実際に行ったものは身につけているので、今後も実体験の機会を多くとるようにする。
- 単元ごとに復習プリントや演習問題を解き、身につけた知識や資料を用いて総合的に解答する機会を設けるとともに、問題文を読み取る力を養う。

英語	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	2-(4)	3	4-(1)	4-(2)	4-(3)	5-7	5-1	6-(1)	6-(2)
東京都	62.1	39.2	58.0	42.5	93.3	16.3	65.5	61.3	53.2	76.6	71.1	60.4	75.4	49.9	24.9
本校	45.6	36.8	39.5	28.9	93.9	10.5	48.2	59.6	28.9	62.3	69.3	59.6	71.9	41.2	21.9

	7-(1)	7-(2)	8-(1)	8-(2)	8-(3)	8-(4)	8-(5)	9	10-(1)	10-(2)	10-(3)	11-(1)	11-(2)	11-(3)
東京都	71.8	71.3	56.9	88.6	68.6	79.7	59.8	85.8	27.4	15.8	13.1	43.5	28.7	25.1
本校	57.9	64.9	50.0	87.7	60.5	67.5	42.1	85.1	20.2	1.8	5.3	30.7	19.3	14.9

【結果と課題】

①リスニングの課題 1-(1), (3), 2-(1), (4)

放送を聞いて正しい応答や、内容と合う写真を選ぶ。最後まで説明を聞き、正しい情報を聞きとること、質問に対しての適切な応答への知識が必要。

②言語や文化についての知識・理解 4-(1) (－25ポイント), 4-(2)

1年時に導入した前置詞についての知識は定着が不足していた。今年1月に存在構文と一緒に確認済み。

③読み解く力

すべての問題で東京都の平均を著しく下回っている。必要な情報を読みとり、複数の資料を比較・関連づけて読み解く力が不足している。

④コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (3,9) および、文章を書く力 6-(1), (2)

書くことについての意欲は都平均に大きく劣らない。正しい文法を使って書くということを練習する必要がある。

【今後の具体的方針】

①について…1年時より毎授業で聞き取り活動を行っているものの適切な回答を選び出すところまで行きついていない。会話表現、疑問詞を含む疑問文への応答など会話実践を含めた演習活動を多くする。ペアリーディングで定型表現の定着を図る。

③について…教科書の題材への理解にとどまらず、グラフや公示など様々な文書の読み取りを行っていく。

④について…1年時より自己表現活動を定期的に行っている。正しい表現を意識した表現活動を推進していく。